

令和7年度 安全衛生管理計画書

事業の名称				電話番号			
所在地				労働者数	男 人	女 人	計 人
						うち外国人 人	
総括安全衛生管理者職氏名				事業の種類			
安全管理者職氏名				衛生管理者職氏名			
産業医病院名・氏名				交通労働災害防止担当管理者職氏名			
安全・衛生委員会	委員の人数 人	会社側 人	労働者側 人	議長の職氏名			
リスクアセスメント実施状況(該当に○)	1 実施中 2 実施準備中 3 実施予定 4 予定無し ※該当番号を右に記入		受動喫煙対策の取組状況(該当に○)		1 屋内喫煙室有 2 屋外による喫煙 3 全面禁煙 4 特に対策なし ※該当番号を右に記入		
テレワークの実施状況	1 導入している(一部含む) 2 導入していない ※該当番号を右に記入		副業兼業の導入	1 導入している 2 導入していない ※該当番号を右に記入		治療と仕事の両立支援	1 実施している 2 実施していない ※該当番号を右に記入

1 労働災害発生状況

	死傷件数					労働損失日数	延労働時間数	災害率	
	死亡	休業4日以上	休業1~3日	小計	不休災害			度数率	強度率
令和4年									
令和5年									
令和6年									

職業性疾病発生状況	
-----------	--

無災害継続状況 日付を記入してください	~	の期間休業 災害なし	計	日間 継続中	延べ	時間 継続中
------------------------	---	---------------	---	-----------	----	-----------

2 健康診断の実施状況

一般健康診断	実施日	受診者	人	有所見者	人	有所見率	%
一般健康診断 (特定業務従事者)	実施日	受診者	人	有所見者	人	有所見率	%

特殊健康診断対象業務	従事者数	特殊健康診断実施年月日		受診者数			有所見者 (延べ)	有所見率	2次健診 受診者数
		1回目	2回目	1回目	2回目	延べ			
	人			人	人	人	人	%	人
	人			人	人	人	人	%	人
	人			人	人	人	人	%	人

3 作業環境測定実施状況(前年)

対象作業場名	対象物質	実施年月日		測定結果の評価による管理区分	
		1回目	2回目	1回目	2回目
				第 管理区分	第 管理区分
				第 管理区分	第 管理区分
				第 管理区分	第 管理区分

4 労働災害の減少目標等

(1)	安全衛生管理に関する基本方針（スローガン）
(2)	労働災害減少目標
(3)	交通労働災害減少目標
(4)	本年度の重点実施事項（目標）

5 項目別実施計画

(1)	安全管理体制の整備強化に関する事項	実施事項	実施時期	担当	
(2)	作業環境の整備・改善に関する事項	安全関係	実施事項	実施時期	担当
		衛生関係			
(3)	作業方法の改善に関する事項	実施事項	実施時期	担当	
(4)	定期自主検査 健康診断 作業環境測定 等に関する計画	実施事項	実施時期	担当	
(5)	安全衛生教育の実施に関する事項	実施事項	実施時期	担当	
(6)	交通労働災害防止教育の実施に関する事項	実施事項	実施時期	担当	
(7)	その他の労働災害防止及び健康増進のための行事等	実施事項	実施時期	担当	

令和7年度 安全衛生管理計画書

事業の名称		監督署車輛工場(株)			電話番号		0164-12-3456					
所在地		留萌市大町2丁目12番地			労働者数		男 45 人	女 18 人	計 63 人	うち外国人 5 人		
総括安全衛生管理者職氏名		該当しない			事業の種類		自動車小売業					
安全管理者職氏名		製造課長 安全 太郎			衛生管理者職氏名		総務課長 衛生 花子					
産業医病院名・氏名		監督署医院 健康 次郎			交通労働災害防止担当管理者職氏名		製造課長 安全 太郎					
安全・衛生委員会		委員の人数 8 人	会社側 4 人	労働者側 4 人	議長の職氏名		代表取締役 留萌 拓哉					
リスクアセスメント実施状況(該当に○)		1 実施中 2 実施準備中 3 実施予定 4 予定無し ※該当番号を右に記入			受動喫煙対策の取組状況(該当に○)		1 屋内喫煙室有 2 屋外による喫煙 3 全面禁煙 4 特に対策なし ※該当番号を右に記入			1		
テレワークの実施状況		1 導入している(一部含む) 2 導入していない ※該当番号を右に記入		1	副業兼業の導入		1 導入している 2 導入していない ※該当番号を右に記入		2	治療と仕事の両立支援 1 実施している 2 実施していない ※該当番号を右に記入		1

1 労働災害発生状況

	死傷件数					労働損失日数	延労働時間数	災害率	
	死亡	休業4日以上	休業1~3日	小計	不休災害			度数率	強度率
令和4年	0人	2人	1人	3人	2人	41日	133021時間	22.55	0.31
令和5年	0人	1人	1人	2人	0人	26日	127801時間	15.65	0.20
令和6年	0人	0人	0人	0人	0人	0日	118930時間	0.00	0.00

職業性疾病発生状況	令和2年 一酸化炭素中毒(休業2週間) 1件発生
-----------	--------------------------

無災害継続状況 日付を記入してください	平成12年12月25日 ~	令和4年2月1日	の期間休業 災害なし	計	7,708	日間 継続中	延べ	200,054	時間 継続中
------------------------	---------------	----------	---------------	---	-------	-----------	----	---------	-----------

2 健康診断の実施状況

一般健康診断	実施日	令和4年7月30日	受診者	105 人	有所見者	34 人	有所見率	32.4%
一般健康診断 (特定業務従事者)	実施日	令和5年1月15日	受診者	42 人	有所見者	12 人	有所見率	28.6%

特殊健康診断対象業務	従事者数	特殊健康診断実施年月日		受診者数			有所見者 (延べ)	有所見率	2次健診 受診者数
		1回目	2回目	1回目	2回目	延べ			
有機溶剤を用いた塗装作業	21 人	令和4年7月30日	令和5年1月15日	21 人	21 人	42 人	2 人	4.8%	2 人
アーク溶接に伴う粉じん作業	3 人	令和4年7月30日	令和5年1月15日	3 人	3 人	6 人	0 人	0.0%	0 人
屋内で常時アーク溶接を行うことに伴う溶接ヒュームのにばく露する特化物業務	3 人	令和4年7月30日	令和5年1月15日	3 人	3 人	6 人	0 人	0.0%	0 人

3 作業環境測定実施状況(前年)

対象作業場名	対象物質	実施年月日		測定結果の評価による管理区分			
		1回目	2回目	1回目		2回目	
塗装工場内全体	有機溶剤等	令和4年7月30日	令和4年7月30日	第 1	管理区分	第 1	管理区分
塗装工場内 溶接作業ブース	溶接ヒューム	令和4年7月30日	令和4年7月30日	第 1	管理区分	第 1	管理区分
				第	管理区分	第	管理区分

4 労働災害の減少目標等

(1)	安全衛生管理に関する基本方針（スローガン）
	安全は全てに優先する。気付いた時が改善時期。
(2)	労働災害減少目標
	休業災害ゼロ。
(3)	交通労働災害減少目標
	交通労働災害ゼロ。
(4)	本年度の重点実施事項（目標）
	転倒災害、フォークリフト接触災害防止に関する各種対策の実施。

5 項目別実施計画

(1)	安全管理体制の整備強化に関する事項	実施事項	実施時期	担当	
		毎週、全従業員輪番による安全衛生パトロールを実施する。 危険予知活動（KYK）の活性化を図るため、KYK活性化小委員会を設置する。	毎月20日 5月下旬	製造課長 安全 太郎	
(2)	作業環境の整備・改善に関する事項	実施事項	実施時期	担当	
		安全関係	工場内の床に滑り止め加工を施工し、転倒災害を防止する。 フォークリフトとの接触災害を防止するため、カーブミラーの設置及び走行範囲にラインを引く。	6月 7月	製造課長 安全 太郎
		衛生関係	法改正に基づき、溶接ヒュームに係るフィットテスト等を早急に実施する。 塩素の保管庫が老朽化しているため、保管庫を入れ替える。	5月 8月	総務課長 衛生 花子
(3)	作業方法の改善に関する事項	実施事項	実施時期	担当	
		安全作業標準の内容を見直す。	5月 から 10月	製造課長 安全 太郎	
(4)	定期自主検査 健康診断 作業環境測定 等に関する計画	実施事項	実施時期	担当	
		定期自主検査、健康診断、作業環境測定等について、年間実施計画を策定し、実施漏れのないようにする。	5月	総務課長 衛生 花子	
(5)	安全衛生教育の実施に関する事項	実施事項	実施時期	担当	
		雇入時教育、配置換え教育、能力向上教育等について、年間実施計画を策定し、計画的に実施する。	4月	製造課長 安全 太郎	
(6)	交通労働災害防止教育の実施に関する事項	実施事項	実施時期	担当	
		全従業員を対象に交通ヒヤリマップを作成させる。	5月 から 10月	製造課長 安全 太郎	
(7)	その他の労働災害防止及び健康増進のための行事等	実施事項	実施時期	担当	
		7月：全国安全週間期間中に安全大会を開催する。 10月：全国労働衛生週間期間中における健康づくり講習会を開催する。	7月 10月	製造課長 安衛 太郎 総務課長 衛生 花子	

安全衛生管理計画作成の手引き

1 はじめに

事業の運営に関する計画（プランニング）の重要性については他言を要するまでもなく、各企業におかれては営業計画、生産計画等何らかの形で計画を有しているものと思われます。

安全衛生管理計画もこれらの経営に関する計画と同様の手法で作成し得るものであり、一般に（１）現状の把握・分析、（２）問題点の抽出、（３）目標の設定、（４）具体的実施計画の作成等の手順で作成することになります。

計画書の形式（書式）は企業独自のものを作成することが望ましいと考えられますが、参考例として本書式を示したものです。

2 記載要領

（１）「1 労働災害発生状況」について

イ「死傷件数」は、負傷と職業性疾病（中毒等）の件数で、過去3カ年分について記入します。

ロ「労働損失日数」は、休業日数×300/365で算出し、死亡、障害等級該当災害については次のとおりです。

死亡 7,500日

身体障害等級	1～3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
労働損失日数	7500	5500	4000	3000	2200	1500	1000	600	400	200	100	50

ハ 度数率は災害発生の頻度を表します。算出方法は以下のとおりです。

$\text{度数率} = \text{死傷件数} / \text{延労働時間数} \times 1,000,000$ （死傷件数には不労災害は含まない。）

強度率は災害の重さの程度を表します。算出方法は以下のとおりです。

$\text{強度率} = \text{労働損失日数} / \text{延労働時間数} \times 1,000$

※ 延労働時間とは、全労働者が1年間に働いた総労働時間をいいます。

ニ「職業性疾病の発生状況」は、過去3年の間に発生したものについて、例えば、令和2年有機溶剤中毒（休業4日）1件発生等と記入します。

ホ「無災害継続状況」は、本計画作成時点において継続中の無災害（不労災害を除く）の状況を記入します。

（２）「2 健康診断の実施状況」について

イ 一般健診の「受診者数」等は、年2回実施している場合は両者の合計数を記入します。

ロ「特殊健診」には、法定の有害業務に係るもの（例えば有機溶剤健診等）と行政指導によるもの（例えば振動健診等）があります。

ハ「受診者数」の1回目、2回目とは、年2回実施の場合について分けて記入するものです。

ニ「2次健診受診者数」とは、有所見者のうち要精検等の指示によって2次健診を受診した者の数です。

（３）「3 作業環境測定実施状況（前年）」について

イ 本欄は、法定の作業環境測定が義務付けられている作業場について、実施した状況を記入します。

ロ「管理区分」は、作業環境測定機関等から提出された測定結果の書面に記載されており、管理区分が第3管理区分である場合は直ちに設備の点検、整備等により作業環境の改善を行わなければならないことと定められております。

（４）「4 労働災害の減少目標等」について

イ「安全衛生管理に関する基本方針」には、経営者の労働災害防止についての理念や基本姿勢等、訓示的な言葉を記入します。

また、全社的なスローガンを定める場合はそれも記入します。

ロ「労働災害減少目標」及び「交通労働災害減少目標」は、具体的な件数や災害率の減少目標値を定め、例えば、「死亡、重篤災害はゼロ、休業災害の50%減を目標とする」等と記入します。

なお、前年の発生件数が極めて少ない場合は「無災害を目標とする」等の表現となります。

ハ「本年度の重点実施事項」は、記の5に掲げられる事項のうち特に重点として達成すべき事項又は目標を記入します。

なお、個別的な項目でなくても、例えば「KY活動の定着」とか、「ヒヤリ、ハット運動を全員で」等全体的な事項を記載しても良いでしょう。

(5) 「5 項目別実施計画」について

イ (1) から (7) までのいずれの項目についても、まず、現状の把握分析を行って問題点を抽出し、その中から当年中に計画的に実施する事項を定めることとなります。

この場合、災害発生事例や、監督署からの指導のあった事項等を検討することも一つの方法です。

ロ (1) から (7) の事項について参考例を示しますと、次のようなものがあります。

(1) 関係

- ・危険予知活動を採用する。
- ・生産ラインの班毎に安全衛生責任者を定め、安全当番制度を採用する。
- ・安全衛生委員会の活動を活発にするための方策を定める。
- ・職場の安全衛生パトロール体制を定め、定期的を実施する。
- ・安全、衛生の責任者の腕章（ワッペン）を着用する。

(2) 関係

- ・工場の一斉整頓（清掃）日を定めて実施する。
- ・作業場の安全通路を整備する。
- ・〇〇機械の安全装置を改善する。
- ・塗装作業場の換気設備を改善する。
- ・工場の手洗い、洗身設備を改善する。

(3) 関係

- ・〇〇作業の安全作業標準を作成する。
- ・〇〇作業の工程（レイアウト）を改善する。（設備改善を伴う場合は（2）に記す。）
- ・粉じん作業の防じんマスクの着用を徹底する。
- ・塗装作業の能率を向上させ、作業時間の短縮を図る。

(4) 関係

- ・機械設備の点検、整備体制を明確にする。
- ・点検、整備のチェックリストを作成する。
- ・その他、法定の自主点検、健診、測定等の実施計画を記入する。

(5) 関係

- ・新規雇入れ者の安全教育（実地訓練）を行う。
- ・〇〇作業従事者の特別教育を行う。
- ・ツールボックスミーティング（又は職場安全会議）を行う。
- ・安全講習会を開催する。（又は、外部の講習会に出席させる。）
- ・ポスター、掲示、パンフレットを作成する。

(6) 関係

- ・交通ヒヤリマップを作成する。
- ・交通K Y Tを採用する。
- ・交通労災防止担当管理者に新交通K Y T 1日研修会に参加させる。
- ・自動車運転者のための改善基準の周知徹底を図る。
- ・通勤等の交通安全について講習会やP Rを行う。
- ・冬道運転の講習会に参加させる。

(7) 関係

- ・安全提案制度を採用する。
- ・朝礼でラジオ体操を行い、安全についてのワンポイントを話す。
- ・ヒヤリ、ハット運動を行う。
- ・安全・衛生週間に行事を行う。（具体的実施事項を定める。）
- ・健康増進のため、体力測定、ソフトボール大会等のレクレーションを実施する。
- ・メンタルヘルスケアに取り組む。
- ・健康の保持増進に効果のある、労働時間の短縮、年次有給休暇の計画的取得等の対策を定める。